



2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年2月9日

上場会社名 株式会社中村超硬 上場取引所 東
コード番号 6166 URL <http://www.nakamura-gp.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 井上 誠
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 田植 啓之 (TEL) 072-274-1072
四半期報告書提出予定日 2024年2月9日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績 (2023年4月1日～2023年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	1,837	△29.7	△340	—	△362	—	△442	—
2023年3月期第3四半期	2,613	△9.5	40	△83.0	57	△76.8	△86	—

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 △441百万円(—%) 2023年3月期第3四半期 △83百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	△40.13	—
2023年3月期第3四半期	△7.88	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第3四半期	6,069	272	4.3
2023年3月期	4,688	714	15.0

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 259百万円 2023年3月期 701百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年3月期	—	0.00	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想 (2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,400	△27.8	△530	—	△560	—	500	—	45.37

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) - 、除外 一社(社名) -

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期3Q	11,020,900株	2023年3月期	11,020,900株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	1株	2023年3月期	1株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期3Q	11,020,899株	2023年3月期3Q	11,020,900株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響の縮小に伴い、社会経済活動の正常化が進み、個人消費やインバウンド需要の持ち直しにより、緩やかな回復基調で推移いたしました。しかしながら、世界経済においてはロシア・ウクライナ情勢の長期化や、中東における地政学リスクの高まりの中、原材料・エネルギー価格の高止まりによる世界的なインフレの進行、金融引き締め政策の継続による為替変動、中国における不動産不況や内外需低迷による成長率の鈍化など、依然として厳しい状況が続いており、わが国経済を取り巻く世界情勢は、予断を許さない状況が続いております。

このような状況下、当社グループは、特殊精密機器事業において新規顧客の開拓等に一定の進捗が見られたものの、中国経済停滞の影響を受け、主力製品である実装機用ノズルの受注が大きく落ち込むこととなりました。同様に化学繊維用紡糸ノズル事業においても、中国向け不織布関連ノズルの受注が低調に推移し、厳しい事業環境となりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は1,837百万円（前年同期比29.7%減）、営業損失は340百万円（前年同期は40百万円の営業利益）、経常損失は362百万円（前年同期は57百万円の経常利益）、親会社株主に帰属する四半期純損失は442百万円（前年同期は86百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

① 特殊精密機器事業

特殊精密機器事業については、耐摩耗工具関連分野における自動車部品メーカーへの販売拡大や、大手ベアリングメーカーとの新規取引の開始等の成果はあったものの、中国経済停滞の影響を受け、主力製品である実装機用ノズルの売上が大きく落ち込むなど、厳しい事業環境が継続しております。

これらの結果、売上高は568百万円（前年同期比4.4%減）、セグメント利益は8百万円（前年同期比16.6%増）となりました。

② 化学繊維用紡糸ノズル事業

化学繊維用紡糸ノズル事業については、風力発電用ブレード向け及び航空機向け炭素繊維用ノズルは、旺盛な需要により好調に推移いたしました。反面、炭素繊維以外の化学繊維用紡糸ノズルについては、中国経済停滞の影響によるノズル需要の減少や、マスク需要の終息による不織布関連ノズル需要の低迷により低調に推移いたしました。

これらの結果、売上高は1,183百万円（前年同期比34.0%減）、セグメント損失は40百万円（前年同期は310百万円のセグメント利益）と、不織布製造装置の収益を計上した前年同期と比較すると大幅な減収減益となりました。

③ D-Nex t 事業（旧電子材料スライス周辺事業）

D-Nex t 事業については、当社製の半導体・難削材向けダイヤモンドワイヤを正式採用する企業が着実に増えており、当第3四半期連結累計期間においては、販売拡大の期待値が高い大手顧客計5社に対し量産販売を行っております。また、ダイヤモンドワイヤ製造装置販売については、インド市場にターゲットを絞り商談を継続しております。

これらの結果、売上高は80百万円（前年同期比46.4%減）、セグメント損失は197百万円（前年同期は112百万円のセグメント損失）と、中国向けダイヤモンドワイヤ製造装置販売の契約対価の一部を計上した前年同期と比較すると減収減益となりました。

④ マテリアルサイエンス事業

新規事業として取り組んでいるナノサイズゼオライトについては、引き続き量産顧客獲得を目指したサンプルの提供と、展示会出展をはじめとする認知度向上に取り組んでおります。

なお、前年においてはパイロットプラント立ち上げに係る山全社からの受託収入を計上したため、当期実績は前年同期を大幅に下回る結果となり、売上高は4百万円（前年同期比94.5%減）、セグメント損失は119百万円（前年同期は97百万円のセグメント損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産

当社連結子会社の日本ノズル株式会社における新工場の建設及び大型メルトブローンノズル・ダイ製造設備に関する投資として、機械装置及び運搬具が1,189百万円増加、建物及び構築物が508百万円増加したものの、現金及び預金が477百万円減少したこと等により、総資産は前連結会計年度末に比べ1,381百万円増加し6,069百万円となりました。

② 負債

上記工場建設及び当該設備投資に係る資金として、短期借入金が1,200百万円増加、長期借入金が583百万円増加、1年以内返済予定の長期借入金が99百万円増加したこと等により、負債は前連結会計年度末に比べ1,823百万円増加し5,797百万円となりました。

③ 純資産

利益剰余金が442百万円減少したこと等により、純資産は前連結会計年度末に比べ442百万円減少し272百万円となりました。

この結果、自己資本比率は4.3%（前連結会計年度末は15.0%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の連結業績予想につきましては、2023年5月12日付決算短信において公表いたしました予想から修正しております。詳細は、2024年2月9日付の「業績予想の修正及び特別損失の発生に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,999,126	1,521,711
受取手形及び売掛金	473,249	398,522
商品及び製品	30,516	40,652
仕掛品	385,721	566,835
原材料及び貯蔵品	123,040	131,727
その他	105,809	295,810
流動資産合計	3,117,464	2,955,260
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	500,173	1,008,374
機械装置及び運搬具(純額)	226,579	1,415,907
土地	614,882	614,882
その他(純額)	178,936	30,164
有形固定資産合計	1,520,571	3,069,328
無形固定資産	17,815	14,713
投資その他の資産		
投資その他の資産	66,654	64,204
貸倒引当金	△33,923	△33,923
投資その他の資産合計	32,730	30,280
固定資産合計	1,571,117	3,114,323
資産合計	4,688,582	6,069,583

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	247,675	300,051
前受金	186,666	186,666
契約負債	226,439	188,283
短期借入金	2,040,000	3,240,000
1年内返済予定の長期借入金	133,333	233,317
リース債務	19,407	20,778
未払法人税等	13,047	1,643
賞与引当金	60,743	21,653
受注損失引当金	3,079	767
その他	198,962	137,437
流動負債合計	3,129,355	4,330,599
固定負債		
長期借入金	266,666	850,018
リース債務	36,464	75,682
退職給付に係る負債	231,764	233,548
資産除去債務	49,371	49,894
その他	259,987	257,505
固定負債合計	844,255	1,466,650
負債合計	3,973,611	5,797,250
純資産の部		
株主資本		
資本金	349,042	349,042
資本剰余金	299,042	299,042
利益剰余金	71,192	△371,052
自己株式	-	△0
株主資本合計	719,277	277,032
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△601	△648
繰延ヘッジ損益	△1,345	2,305
為替換算調整勘定	△15,842	△18,906
その他の包括利益累計額合計	△17,789	△17,249
新株予約権	13,483	12,550
非支配株主持分	-	-
純資産合計	714,971	272,333
負債純資産合計	4,688,582	6,069,583

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	2,613,820	1,837,189
売上原価	1,821,313	1,481,378
売上総利益	792,507	355,810
販売費及び一般管理費	751,796	696,130
営業利益又は営業損失(△)	40,710	△340,320
営業外収益		
受取利息	427	76
受取配当金	81	43
助成金収入	-	2,164
為替差益	-	6,498
原材料売却益	35,373	-
その他	2,092	2,283
営業外収益合計	37,974	11,065
営業外費用		
支払利息	12,653	30,162
為替差損	6,413	-
その他	2,423	2,706
営業外費用合計	21,491	32,869
経常利益又は経常損失(△)	57,193	△362,124
特別利益		
固定資産売却益	-	399
新株予約権戻入益	169	932
特別利益合計	169	1,332
特別損失		
固定資産除却損	21,023	-
減損損失	11,813	28,668
訴訟関連費用	75,840	55,804
特別損失合計	108,677	84,473
税金等調整前四半期純損失(△)	△51,314	△445,264
法人税、住民税及び事業税	28,629	793
法人税等調整額	6,882	△3,812
法人税等合計	35,512	△3,019
四半期純損失(△)	△86,826	△442,245
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△86,826	△442,245

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純損失(△)	△86,826	△442,245
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△58	△46
繰延ヘッジ損益	2,001	3,651
為替換算調整勘定	1,147	△3,064
その他の包括利益合計	3,089	540
四半期包括利益	△83,736	△441,704
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△83,736	△441,704
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

従来、当社グループの有形固定資産（リース資産を除く）の減価償却方法については、主として定率法を採用していましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更しております。

連結子会社の日本ノズル株式会社における新工場の建設及び大型メルトブローンノズル・ダイ製造設備の取得を契機に有形固定資産の使用実態を検討した結果、急激な技術的・経済的陳腐化のリスクが低くなり、また今後も耐用年数にわたり安定的に稼働していくことが見込まれることから、費用を均等に配分する定額法を採用することが、有形固定資産の使用実態をより合理的に反映すると判断いたしました。

この変更により、従来の方法と比べて、当第3四半期連結累計期間の売上総利益が39,675千円増加し、営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失はそれぞれ41,313千円減少しています。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響について)

新型コロナウイルスの感染拡大が、当第3四半期連結累計期間において会計上の見積りに与えている影響については、前連結会計年度の有価証券報告書の（追加情報）に記載した内容より重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	特殊精密 機器事業	化学繊維用 紡糸ノズル 事業	D-N e x t 事業	マテリアル サイエンス 事業	計	調整額 (注) 1 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高							
外部顧客への売上高	594,439	1,793,812	150,343	75,225	2,613,820	—	2,613,820
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	27,375	—	277	—	27,653	△27,653	—
計	621,815	1,793,812	150,621	75,225	2,641,473	△27,653	2,613,820
セグメント利益 又は損失(△)	7,206	310,239	△112,990	△97,845	106,610	△65,899	40,710

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間の取引の消去によるものであり、これは主としてグループ間の売上取引及び業務委託取引の消去によるものであります。

2 調整額の項目に含めた配賦不能営業費用はありません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する事項

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位:千円)

	特殊精密 機器事業	化学繊維用 紡糸ノズル 事業	D-N e x t 事業	マテリアル サイエンス 事業	計	調整額 (注) 1	合計額
減損損失	2,791	—	833	3,617	7,243	4,570	11,813

(注) 1 調整額の金額は、すべて共用資産に係る金額であります。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	特殊精密 機器事業	化学繊維用 紡糸ノズル 事業	D-N e x t 事業	マテリアル サイエンス 事業	計	調整額 (注) 1 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高							
外部顧客への売上高	568,573	1,183,961	80,523	4,131	1,837,189	—	1,837,189
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	41,042	55	50	—	41,147	△41,147	—
計	609,616	1,184,016	80,573	4,131	1,878,336	△41,147	1,837,189
セグメント利益 又は損失(△)	8,402	△40,866	△197,971	△119,260	△349,695	9,374	△340,320

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間の取引の消去によるものであり、これは主としてグループ間の売上取引及び業務委託取引の消去によるものであります。

2 調整額の項目に含めた配賦不能営業費用はありません。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

「化学繊維用紡糸ノズル事業」において、新工場の建設及び大型マルチブローンノズル・ダイ製造設備の取得に伴い、固定資産が増加しました。これにより前連結会計年度の末日に比べ、「化学繊維用紡糸ノズル事業」のセグメント資産が、1,710,190千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する事項

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：千円)

	特殊精密 機器事業	化学繊維用 紡糸ノズル 事業	D-N e x t 事業	マテリアル サイエンス 事業	計	調整額 (注) 1	合計額
減損損失	26,130	—	2,238	—	28,368	300	28,668

(注) 1 調整額の金額は、すべて共用資産に係る金額であります。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの名称変更)

第1四半期連結会計期間より、従来「電子材料スライス周辺事業」としていた報告セグメントの名称を「D-N e x t 事業」に変更しております。この変更はセグメント名称の変更であり、セグメント情報に与える影響はありません。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報についても変更後の名称で記載しております。

(重要な後発事象)

当社は、2024年3月期第4四半期連結会計期間(2024年1月1日から2024年3月31日)におきまして、下記のとおり特別利益(補助金収入)を計上することとなりました。

(特別利益の計上について)

当社子会社である日本ノズル株式会社の新工場の建設及び大型マルチブローンノズル・ダイ製造設備に関する投資において、「サプライチェーン対策のための国内投資促進事業費補助金」の申請により、確定通知を受領いたしました。そのため、2024年3月期第4四半期連結会計期間におきまして特別利益1,181百万円を「補助金収入」として計上することいたしました。